

はじめてのクラシック

INTRODUCTION TO CLASSICAL MUSIC

イラスト:IKE/文:松井治伸

故郷への懐かしみがきざめく旋律

アントニン・ドヴォルザーク

Antonín Dvořák (1841-1904)

ドヴォルザークが生まれたのはチェコ西部・ボヘミアの農村です。生家は宿屋と肉屋を営んでいました。父は民族楽器ツィターとヴァイオリンが得意な大の音楽好き。ドヴォルザークもヴァイオリンを習い始め、みるみるうちに上達します。家にやってくる旅芸人の音楽や、村人たちが踊る民族舞踊と触れ合いながら、ドヴォルザーク少年もヴァイオリンで民謡を奏でたと言います。そうした生い立ちが、作曲家ドヴォルザークの音楽を育みました。《ヴァイオリン協奏曲》の第3楽章では、少年時代の思い出の楽器ヴァイオリンが民族舞曲風のメロディを^{さっそうと}演奏します。

B
2026
FEBRUARY
[第2059回]



幼少期のドヴォルザーク。
「鉄オタ」としても知られる彼だが、
この頃の故郷とウィーンを結ぶ鉄道の開通が
きっかけだという話も

©IKE